

名古屋市、東山動物園来園者の動物に対する 関心の変化と展示施設前での行動

五百部裕(椙山女学園大学・人間関係学部)

目的

杉本他(2004)に触発され、2007年度に犬山市の日本モンキーセンター(JMC)において、動物園で動物を見学することが、動物園来園者の展示動物に対するどのような関心の変化をもたらすかを、来園者に対する入園時と退園時のアンケート調査と展示施設前での来園者の行動観察から明らかにしようと試みた(五百部・杉山、2008)。

その結果、展示動物の動物園内での展示場所や展示方法が、来園者の数や滞在時間に影響を与えており、こうした特性が展示動物に対する関心の変化をもたらしていることが明らかになった。

JMCで展示されている動物はおもに霊長類であるので、今回はさまざまな動物が展示されている名古屋市の東山動物園で同様の調査を行った。

調査地と日時

調査地:名古屋市東山動物園

調査日時:2009年5月30日(土)・6月27日(土)、9時～16時ごろ

椙山女学園大学人間関係学部の授業の一環として実施(約20名の学生が参加)

調査方法1(アンケート調査)

①入園者を対象としたアンケート調査(アンケート内容は「別紙」)

正門と北園門の2ヶ所で行う

9時過ぎから開始、10時ごろまでを目途にそれぞれの場所で100枚程度の回収をめざした

回答者 5月30日:128名、6月27日:119名

②退園者を対象としたアンケート調査(アンケート内容は「別紙」)

正門と北園門の2ヶ所で行う

15時ごろから開始、16時ごろまでを目途にそれぞれの場所で100枚程度の回収をめざした

回答者 5月30日:102名、6月27日:59名

調査方法2(行動観察)

調査対象動物:コアラ、アジアゾウ、キリン、ペンギン、(ライオン、トラ)
平成20年度に行われた人気動物調査の上位種
()内の動物は、5月30日のみ

記録内容

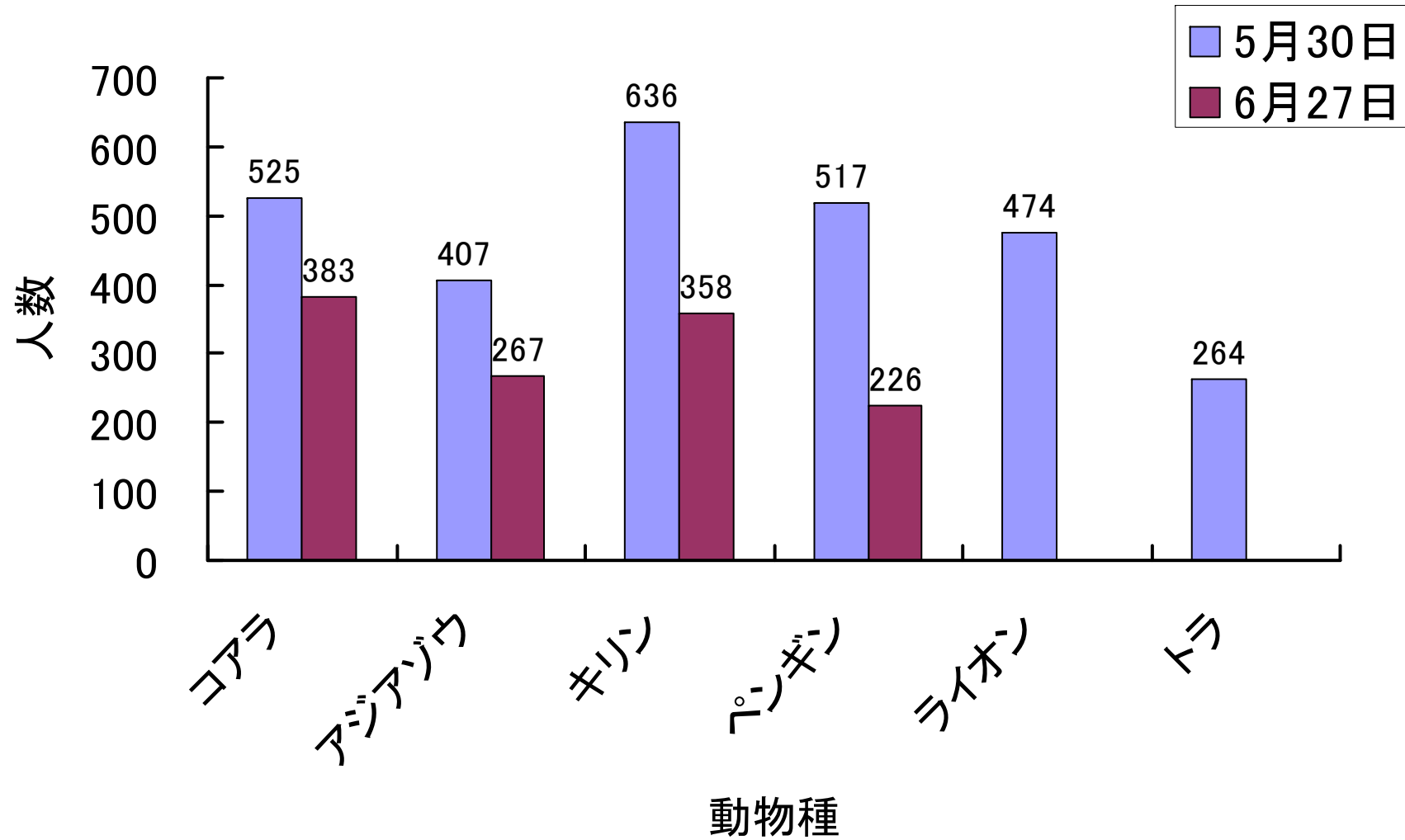
1. 通り過ぎた来園者の数も含め、施設の前に来たすべての来園者の数
2. 来園者の滞在時間
3. 来園者の行動(30秒ごと)
「動物を見る・指す」「隣にいる人を見る」「隣の人に話しかける・笑いかける」
「動物の注意を引く」「ビデオ・写真を撮る」「その他」
4. 動物の位置と行動(30秒ごと)
動物の位置:複数個体いた場合は最も近い動物の位置で判断した
「近い位置」「遠い位置」「見えない」
動物の行動:複数個体いた場合は動きのある個体の状態を記録した
「動いている」「餌を食べる」「鳴く」「寝る、座る(止まっている)」

観察対象者:観察区域内で立ち止まった2人以上のグループの来園者
3人以上のグループの場合、その中の2人を選び、観察対象とした
複数のグループが同時に立ち止まった場合は、先に立ち止まったグループ

観察単位:観察区域に立ち止まり、区域外へ立ち去るまでを1セッションとした

観察時間:30分を単位とし、これを数回繰り返した

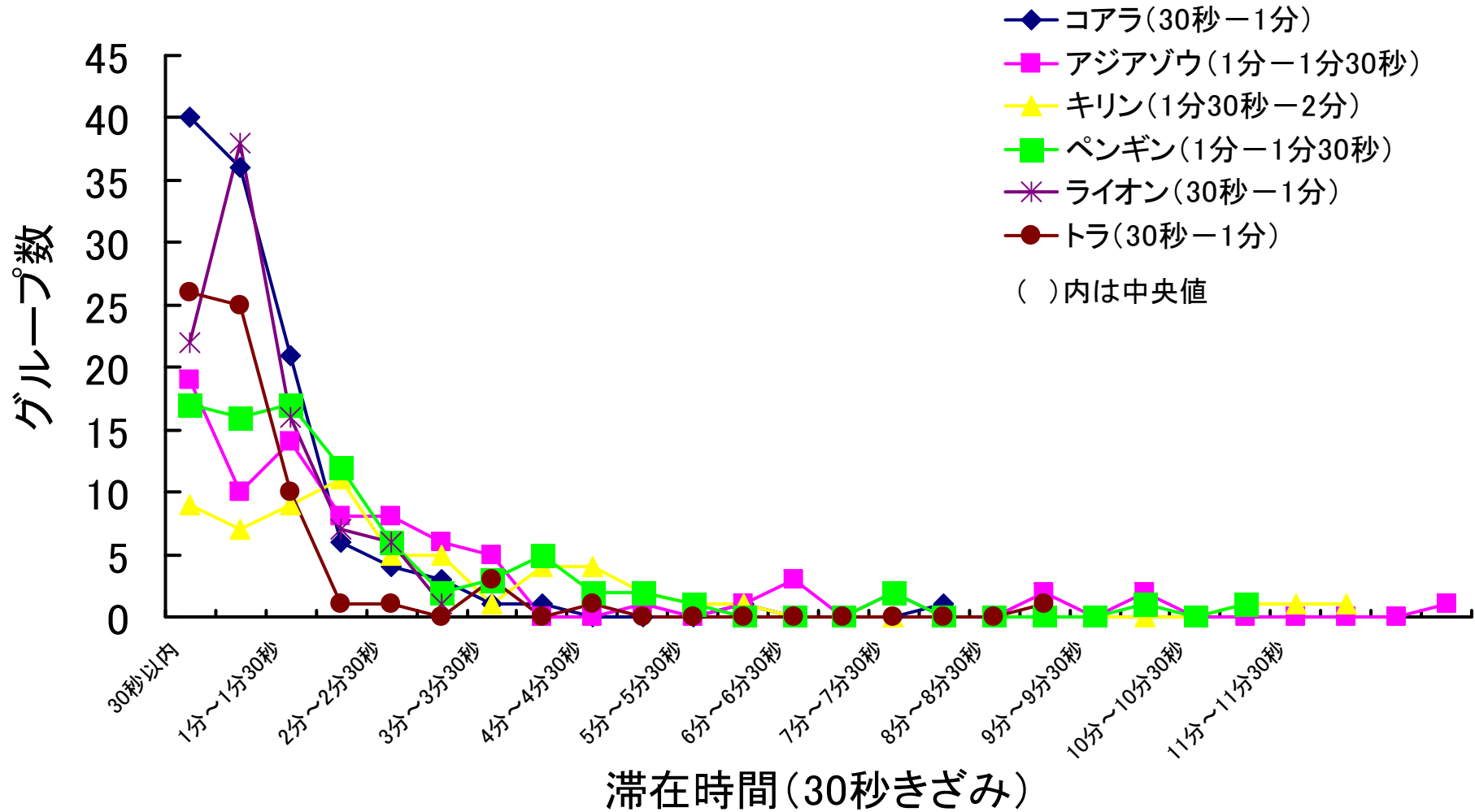
30分当たりの通過人数



30分あたりの通過人数

- ・30分あたりの通過人数は、どの動物種でも5月30日の方が多かった
- ・30分あたりの通過人数には、動物種によって、最大300名以上の違いがあった
- ・両日とも、キリンやコアアラは、通過人数が比較的多かった
- ・両日とも、アジアゾウは、通過人数が比較的少なかった

滞在時間の分布



来園者の滞在時間

- ・展示施設前での来園者の滞在時間は、動物種による違いが認められた
- ・コアラやトラでは、30秒以内で立ち去る人が最も多く、以下、滞在時間が長くなるとともに急激に人数が減少した
- ・ライオンでは、30秒～1分に人数のピークがあるが、以下、滞在時間が長くなるとともに急激に人数が減少した
- ・ペンギン、アジアゾウ、キリンでは、30秒以内～1分30秒あたりまで、あまり変化が見られず、以下、滞在時間が長くなるとともに人数は減少するものの、その変化の仕方は緩やかであった
- ・ペンギン、アジアゾウ、キリンでは、10分以上滞在する人もいた

来園者の滞在時間と動物種

	1分以内	1分以上
コアラ	81グループ	36グループ
アジアゾウ	33	48
キリン	20	43
ペンギン	32	53
ライオン	60	29
トラ	39	15

1分が全体の中央値

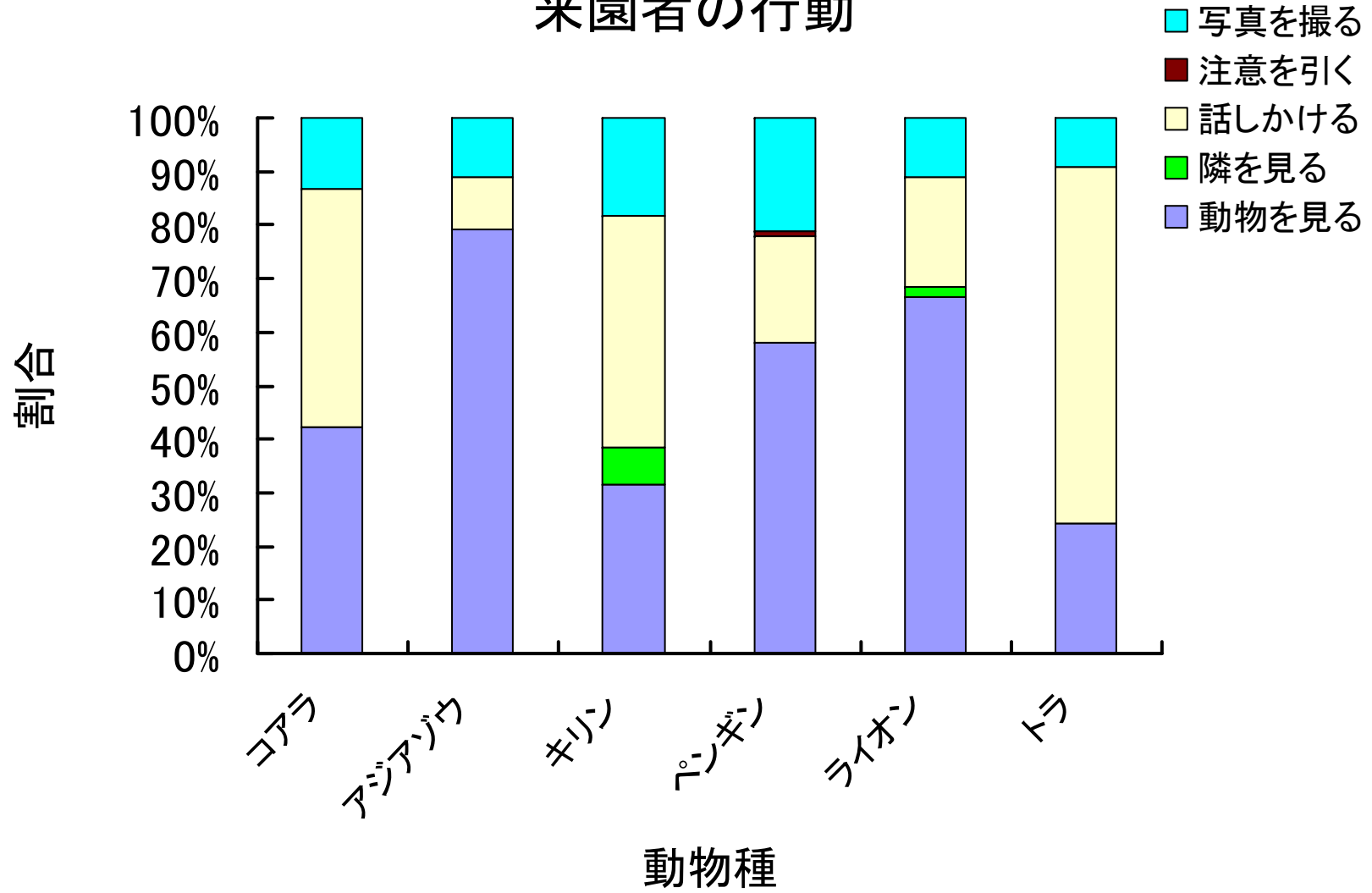
全体の中央値である1分で区分した場合、
アジアゾウ、キリン、ペンギンでは、1分以上滞在するグループが多く、
コアラ、ライオン、トラでは、1分以内しか滞在しないグループが多かった

動物の「活動性」と来園者の滞在時間

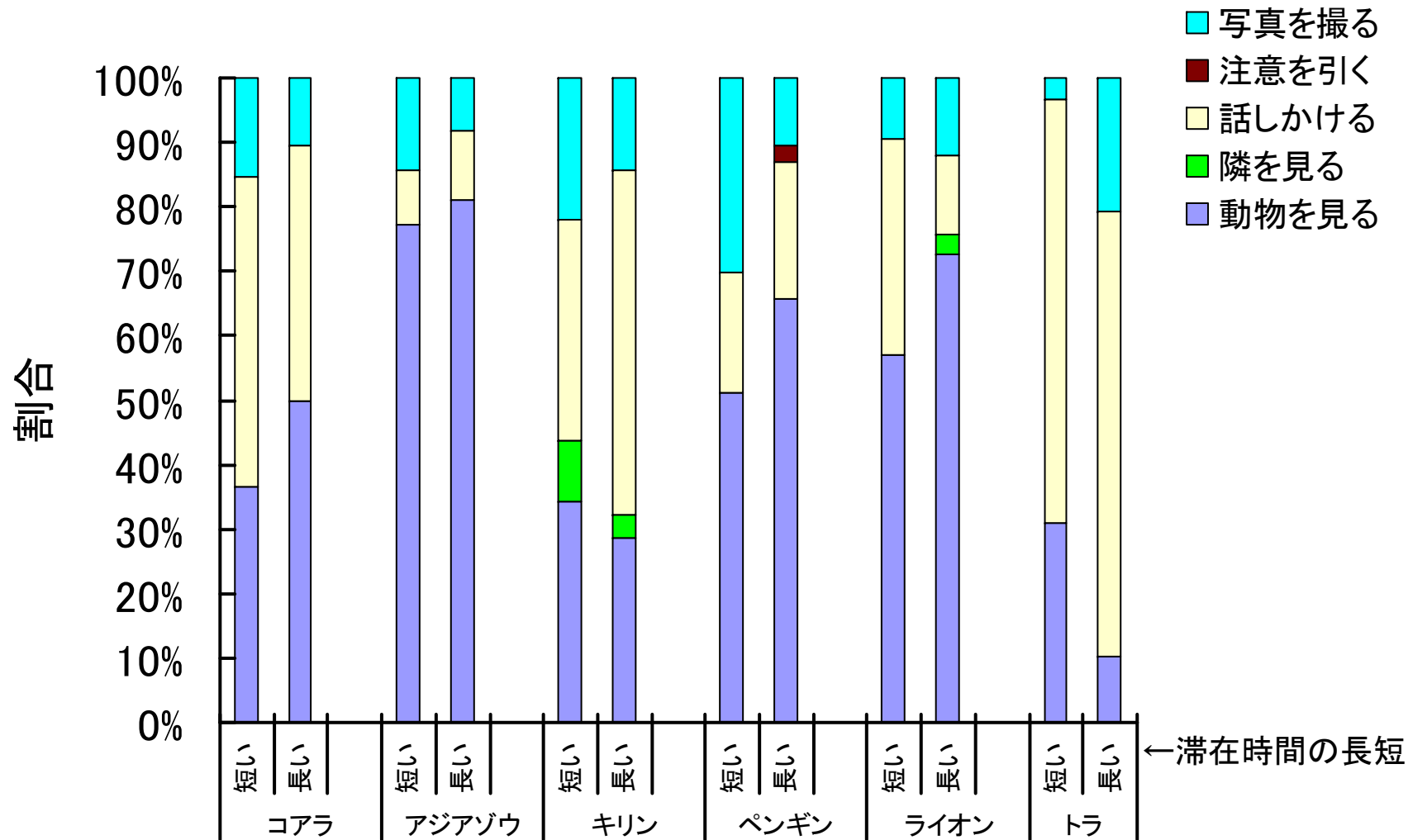
滞在時間が長いグループ	活動していた	活動していなかった
アジアゾウ	85%	15%
キリン	83	17
ペンギン	71	29
滞在時間が短いグループ		
コアラ	42	58
ライオン	8	92
トラ	11	89

来園者の滞在時間が比較的長い動物種では、その動物が活動している割合が高く、来園者の滞在時間が比較的短い動物種では、その動物が活動している割合が低かった

来園者の行動



滞在時間と来園者の行動

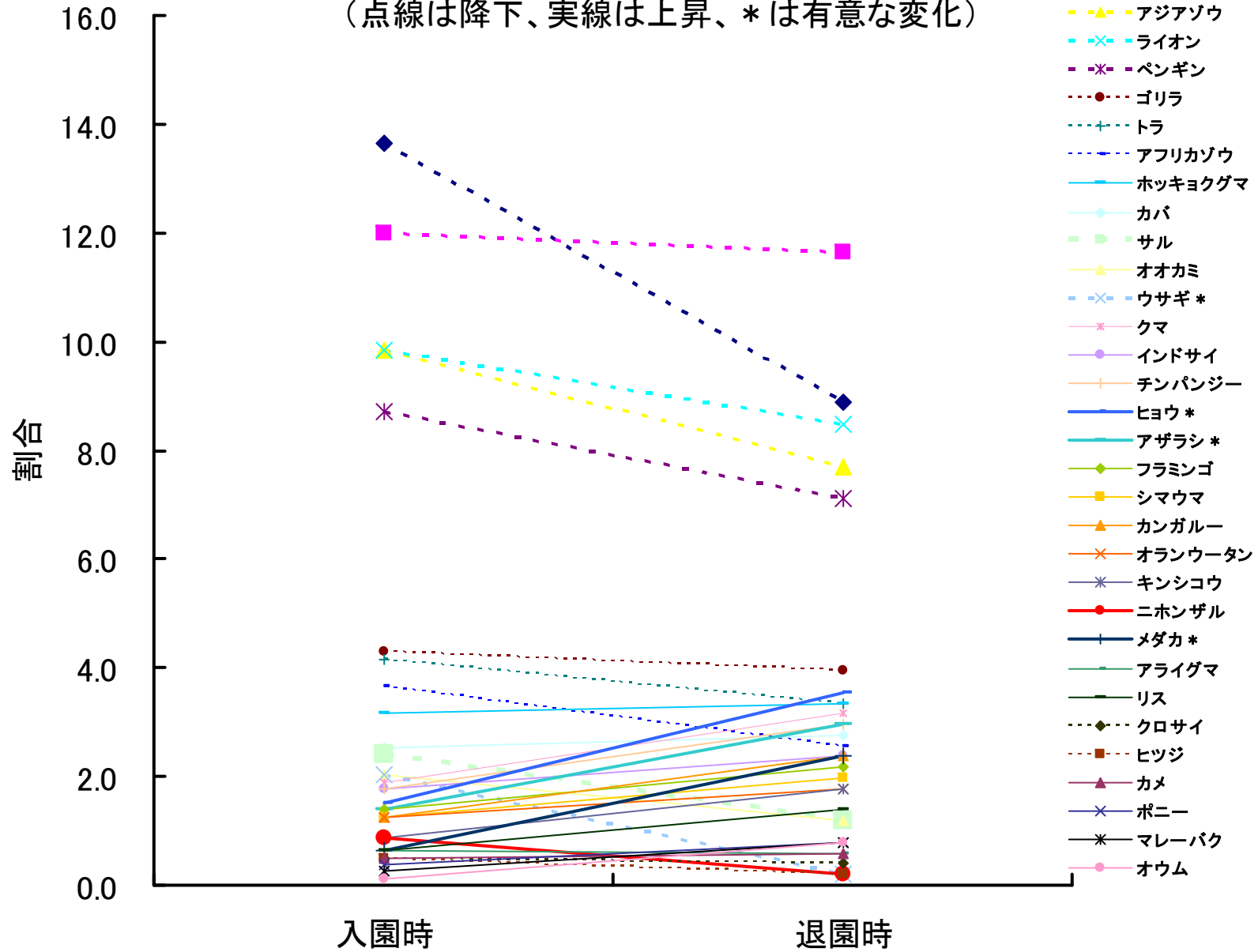


来園者の行動

- ・来園者が展示施設の前で行う行動には、動物種による違いが認められた
- ・アジアゾウでは、動物を見る人の割合が非常に高かった
- ・ペンギンやライオンでも、動物を見る人の割合が高かった
- ・トラでは、展示施設前で隣の人と話す割合が高かった
- ・コアラやキリンでも、隣の人と話したり、隣の人を見る割合が高かった
- ・来園者の滞在時間と来園者が展示施設の前で行う行動との間には、明確な関係は認められなかった

入園時と退園時の関心の変化

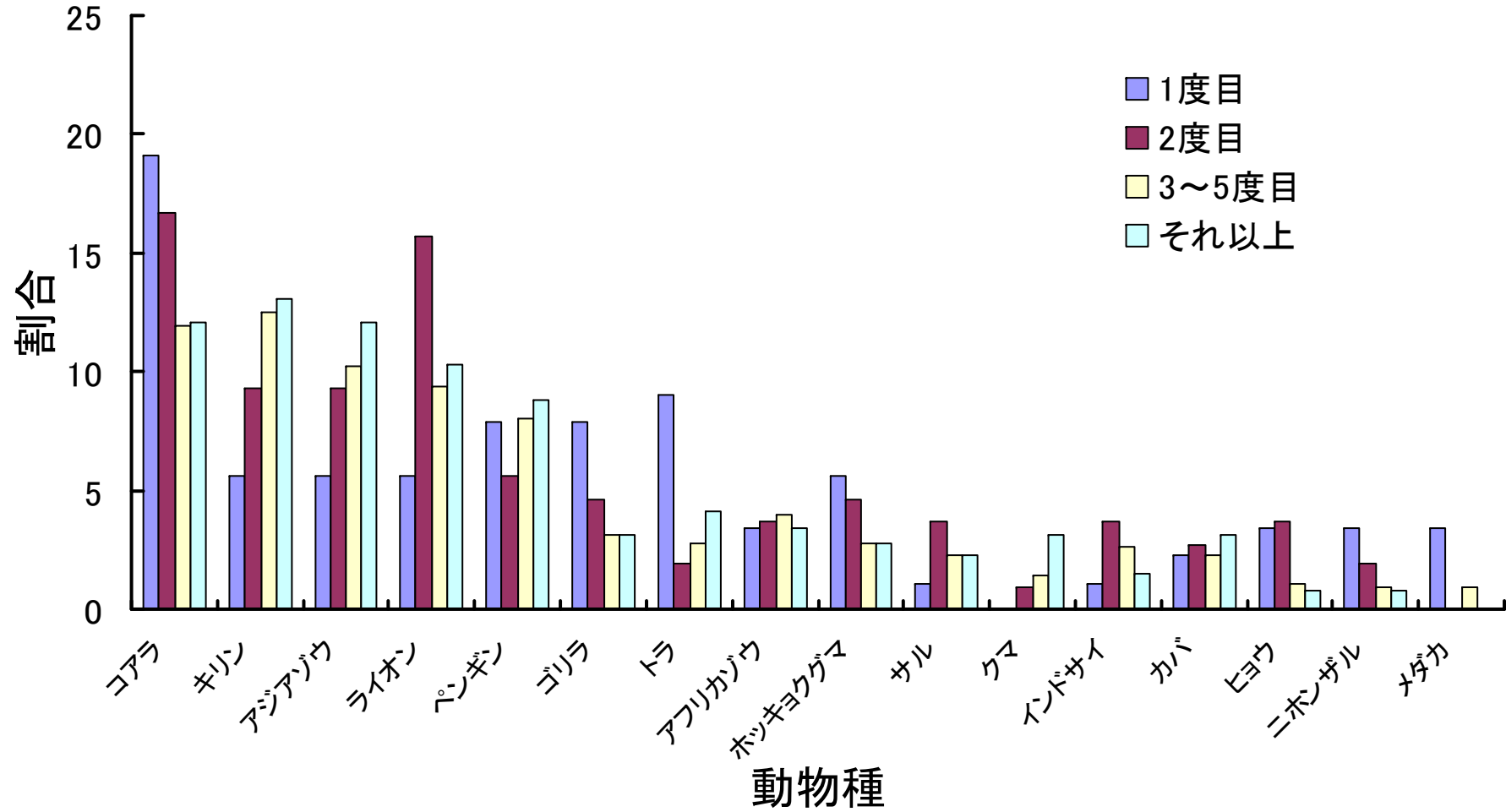
(点線は降下、実線は上昇、*は有意な変化)



来園者の関心の変化

- ・入園時と退園時で来園者の関心が大きく変化した動物種があった
- ・コアラとウサギは、退園時の関心が有意に低下した
- ・アジアゾウ、ライオン、ペンギン、アフリカゾウ、サルなどは、有意差はなかったものの、退園時の関心が低下していた
- ・ヒョウ、アザラシ、メダカは、退園時の関心が有意に上昇した
- ・クマ、チンパンジー、カンガルーなどは、有意差はなかったものの、退園時の関心が上昇していた

来園回数と入園時の関心



来園回数と入園時の関心の関連

- ・コアラやゴリラでは、来園回数が増えると入園時の関心が低下する傾向が見られた
- ・キリンやアジアゾウ、クマでは、来園回数が増えると入園時の関心が上昇する傾向が見られた
- ・ペンギンのように、来園回数による入園時の関心の変化が見られない動物もいた

結果と考察

1. 展示動物の種類によって、展示施設の前を通過する人数や展示施設前での滞在時間が異なる
コアラ: 多い、短い、キリン: 多い、長い、アジアゾウ: 少ない、長い、トラ: 少ない、短い
2. 展示動物の種類によって、展示施設前での来園者の行動が異なる
アジアゾウ: 動物を見る、トラ: 隣に話しかける
3. 滞在時間が長い動物では、その動物が動いていることが多い
4. 入園時と退園時の来園者の関心が大きく変化する動物が存在する
上昇: ヒョウ、アザラシ、メダカ、(クマ)、(チンパンジー)、(カンガルー)
下降: コアラ、ウサギ、(アジアゾウ)、(ライオン)、(ペンギン)、(アフリカゾウ)、(サル)
5. 上記4の変化と滞在時間や動物の活動性には明確な関連は認められなかった
ただし 滞在時間が短いと関心が下がる? (コアラ、ライオン)
動物の活動性が低いと関心が下がる? (コアラ、ライオン)
6. 来園回数が増加するにつれて、来園者の関心が変化する動物が存在する
上昇: キリン、アジアゾウ、クマ
下降: コアラ、ゴリラ
7. JMCでの結果と比較して、展示施設の位置や動物の活動性との関連が不明確
(そもそもそれぞれの動物に対する「好み」がある、「サル」ではこの違いが少ない?)

参考文献

五百部裕・杉山未芳、2008、動物園における入園時と退園時の来園者の関心の変化。
第24回日本霊長類学会大会。

杉本崇、中道正之、日野林俊彦、南徹弘、2004、動物園来園者の動物への興味・関心と
飼育展示舎前での来園者の行動との関連。人と動物の関係学会誌、15:79-83。